

蹴上発電所とその周辺の見所 ～京都の近代化の足跡をたどる～

蹴上発電所は琵琶湖疏水を利用した水路式水力発電所です。日本初の事業用水力発電所として、琵琶湖疏水が完成した翌年、1891年に運転を開始し、運転開始から130年近く経った今なお、現役の発電所として電気を送り続けています。

当発電所の建設は琵琶湖疏水の開発事業とともにありました。琵琶湖から京都へ水を導く琵琶湖疎水は、琵琶湖―京都―大阪間の舟運や動力だけでなく、防火用水、かんがい用水など幅広く利用され、京都の近代化に大きく貢献する当時の日本における極めて先進的な事業でした。今回は、明治期の京都で行われたこの偉大な事業の息吹を感じられるスポットをご紹介します。



第1期建物 (操業開始当時)

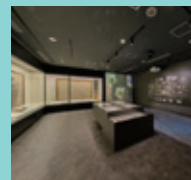


第2期建物

株主さま向けの見学会を開催いたしますので、是非ご応募ください(詳細は裏表紙に記載)。
なお、一般のお客さまの向け見学会も開催しておりますので、当社ホームページをご覧ください。

蹴上発電所 見学会 検索

琵琶湖疏水記念館



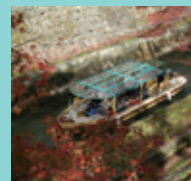
琵琶湖疏水竣工100周年を記念して、1989年に開館した施設であり、疏水が京都の近代化に果たした役割や水道事業の歩みを紹介する資料等が展示されています。2019年に開館30周年を迎え、展示・空間を刷新し、リニューアルオープンしました。

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日：毎週月曜(月曜が祝・休日の場合は翌平日)、年末年始
入館料：無料 住所：京都市左京区南禅寺草川町17

詳しくは… 琵琶湖疏水記念館 検索



びわ湖疏水船



琵琶湖疏水では、1951年を最後に舟運が途絶えていましたが、2018年春、観光用に舟運が復活しました。疏水の流れにのって、大津から蹴上に至る道のりの桜や新緑、紅葉といった四季折々の景観を楽しむことができます。

乗船スケジュール、運行ダイヤおよび乗船料金等につきましては、ホームページよりご確認ください(乗船は完全予約制)。

詳しくは… びわ湖疏水船 検索



京都にお越しの際は、「ホテルエルシエント京都」をご利用ください /

JR京都駅八条東口から徒歩2分。京都の玄関口で20年にわたりお客さまに親しまれてきた「エルイン京都」(運営:関電アメニックス)が2019年4月1日に「ホテルエルシエント京都」としてリブランドオープン。コンセプト“泊まればもっと、その「まち」を好きになる。”をぜひ体験してください。

詳しくは… エルシエント京都 検索



ご宿泊者さまを対象に、夜の時間限定でホテルオリジナルのカップそうめんを無料で配っております。



KANDEN history

EXPO'70 日本万国博覧会

～大阪・関西で開催される2度目の万博に向けて～

1970年に大阪府千里丘陵で開催された万国博覧会は、関西にとってはもちろん日本全体に夢と希望を与える世紀の大プロジェクトでした。

当社は、「万国博に原子の灯を」を合言葉に日本初となる商業用原子力発電所である美浜発電所の建設に取り組み、1970年8月8日午前11時21分、「原子の灯」が万国博の会場に送り届けられ、お祭り広場の電光掲示板にその旨が伝えられました(右上の写真)。

また、他の電力会社と協力し、電力館を出展しました(右下の写真)。「人類とエネルギー」をテーマに、本館で映像と展示、水上劇場でショーと3種類のアトラクションをご提供し、会期中の来館者は500万人に及び、大変な盛況を博しました。

2025年に再び大阪・関西の地で万博が開催されることとなりました。当社は、地元企業として大いに歓迎するとともに、成功に向けて貢献してまいります。



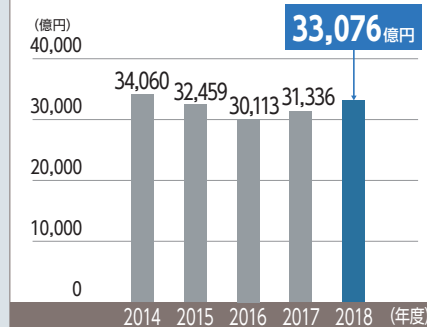
「原子の灯」が届いたことを知らせる電光掲示板



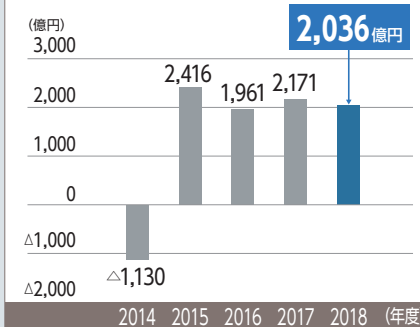
電力館(左側:水上劇場、右側:本館)

Financial Highlights (2018年度)

■連結売上高

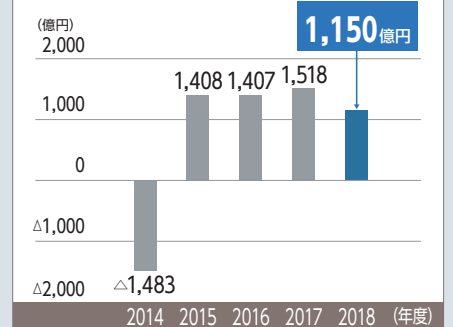


■連結経常利益



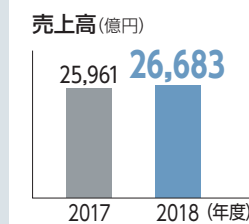
※親会社株主に帰属する当期純利益を指します。

■連結当期純利益※



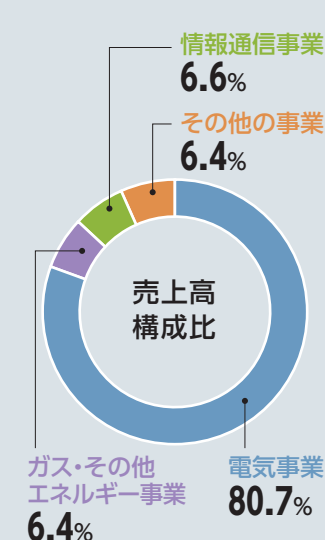
収入面では、電気事業において、小売販売電力量が増加したものの、電気料金の値下げなどにより、電灯電力料収入が減少しましたが、地帯間・他社販売電力料が増加したことに加え、ガス事業や情報通信事業の売上高が増加したことなどから、**売上高は3兆3,076億円**となりました。一方、支出面では、経営効率化により徹底した諸経費の節減に努めたことに加え、原子力プラントの運転再開による費用の低減効果があったものの、小売販売電力量および地帯間・他社販売電力量が増加したことや燃料価格が上昇したことなどから、経常費用は前年度にくらべて増加しました。この結果、**経常利益は2,036億円**となりました。また、昨年の台風第21号に伴う災害により128億円、ならびに国際事業の投資案件における損失180億円を特別損失に計上いたしました。以上の結果、**親会社株主に帰属する当期純利益は1,150億円**となりました。

電気事業

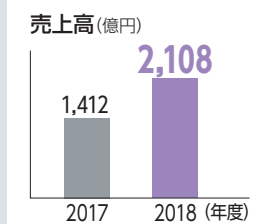


電灯電力料収入が減少しましたが、地帯間・他社販売電力料が増加したことなどから、前年度にくらべて721億円の増収となりました。

セグメント別業績

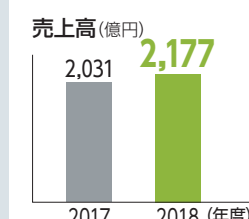


ガス・その他エネルギー事業



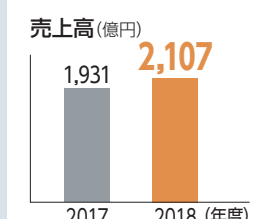
ガス事業においてガス販売量が増加したことや、ガス販売価格が上昇したことなどから、前年度にくらべて695億円の増収となりました。

情報通信事業



FTTHサービス「eo光」や携帯電話サービス「mineo」、電力小売サービス「eo電気」の加入者が増加したことなどから、前年度にくらべて145億円の増収となりました。

その他の事業



不動産事業において、住宅事業分野およびビル事業分野の売上が増加したことなどから、前年度にくらべて176億円の増収となりました。